

令和四年度 全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会

知事賞

優秀賞

中央審査

佳作

「命の水」

砥部町立砥部中学校

二年

石田

心咲

いしだ みさき

私たちは、日々「水」と密接に関わりながら生活しています。そのため、生きていくうえで水は欠かせない、とても大切なものです。

近年、世界では水不足が問題となってきました。しかし、日本で暮らす私たちが、普段の生活で水が使えなくなったり、飲み水が飲めなくなったりといった、深刻な状況に陥ることはなかなかありません。それは、インフラ整備が進んでいて、気候に恵まれているからです。日本は、ダムや水道管などのインフラ整備が充実しています。また、全国各地で適度に雨が降るため、水に困ることなく生活できているのです。さらに、日本は水道普及率が九七％を超えており、水質基準も厳しいため、安全な水を飲むことができます。しかし、これは決して当たり前ではないのです。

現在、世界人口が七十九億人を超える中、二十一億人もの人が安全に管理された水を使用することができません。そのうち、八億四千万人は基本的な飲み水さえ入手できず、一億五千万人は、河川や湖といった未処理の地表水を飲んでいきます。水問題は世界中で起こっていますが、その半数近くがサハラ以南のアフリカに集中しています。

私は、サハラ以南のアフリカ諸国の人々が一生懸命水をくんでいる様子をテレビのコマーシャルで何度か見たことがあります。当時の私は、それが人々にとってとても辛く、深刻な問題であるとは分かっていませんでした。アフリカ諸国の子どもたちの多くは、泥や細菌、動物のふん尿などが混じった危険な水を飲んでいきます。浄水処理をしな

いまま飲むと、抵抗力の弱い子どもたちはたちまち下痢を起こしてしまいます。また、手に入る水の量が少なく、身体や生活環境を清潔に保てなくなると、子どもたちは肺炎など様々な病気に感染しやすくなってしまいます。毎日八百人以上の乳幼児が命を落とし、その数は年間で三十万人にもものぼります。私は、アフリカ諸国の人々の水問題の現状を知り、本当に辛い気持ちでいっぱいになりました。それと同時に、日本はとても水に恵まれているのだと改めて実感しました。

私は水問題について調べていくうちに、ユニセフの活動について知りました。ユニセフは、保険、栄養、水と衛生、教育、保護、HIV／エイズ、緊急支援、アドボカシーなどの支援活動を実施しています。その活動資金は、すべて個人や企業、団体、各国政府からの募金や任意拠出金でまかなわれています。ユニセフ募金は、コンビニエンスストアの募金箱にお金を入れるだけでもできます。私たちにできることは身近なところにあるのです。

水は限りある資源です。世界で進む水不足を解決するために、私たちにできることはたくさんあります。たとえば、「節水」です。節水はとても重要なことですが、意識しないと実行が難しいことでもあります。今一度、水の使い方を見直してみることが大切だと思います。歯みがきのときには洗面器やコップを使ったり、お風呂ではシャワーをこまめに止めたり、トイレでは何度も水を流さないようにしたりなど、節水方法は様々です。生活の場で、水を使いすぎないようにすることが一番簡単にできる節水です。節水をする、電気代の節約や二酸化炭素排出量の削減にもつながるといいうメリットがあります。一人一人が今まで以上に節水を心がけることで、少しでも水不足を解決することができるとは思いませんか。他にも、募金をしたり、水問題の現状を知ったりするなど、できることはたくさんあります。私たち一人一人が自分にできることを実行し、世界中の人が安全な水を飲むことができる日が一日でも早く訪れてほしいです。